

令和4年度 津山市立図書館協議会 会議録

日 時：令和4年10月11日（火）
午後3時30分～5時
会 場：津山市東庁舎
1階E101会議室

出席委員 佐藤委員長 長谷川副委員長 内田委員 竹内委員 田村委員 尾島委員
甲田委員 頼経委員 永禮委員 畑委員 小谷委員 池上校長(代理出席)
欠席委員 赤坂委員 井上委員 御藤委員
事務局 藤井部長 山本課長 菊入館長 平尾副館長 大林副館長

1. 開会

2. 部長挨拶

昨年はコロナ禍のなかで書面会議となり、対面での会議は初めてになる。新型コロナウイルス感染症はまだ収束の兆しは見えないが、図書館としては感染対策に留意しながら、住民・利用者の学習の拠点としてしっかりと役割を果たしていかなければいけないと考えている。この場は市の図書館の会議運営について話をする大変貴重な場所だと考えている。本館・地区館・自動車文庫について忌憚のないご意見をいただけたらと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3. 委嘱状交付 (省略)

4. 自己紹介 (省略)

5. 議事

(1) 図書館協議会役員選出について

佐藤委員を委員長に選出 長谷川委員を副委員長に選出
委員長挨拶

協議会に出させてもらって3期目となる。コロナが蔓延するなかで、協議会の役割というものを考えながらやってきた。図書館といっしょになってやってきて、そのなかでいろいろな成果もあった。微々たる力ではあるがお互い力を合わせて少しでも市立図書館として市民と本を結びつけていけるようにしたい。

(2) 視聴覚ライブラリー担当委員の選出について

御藤委員、永禮委員、小谷委員を選出

(3) 令和3年度津山市立図書館及び視聴覚ライブラリーの利用状況

事務局 令和3年度は、2年度にくらべ、コロナの関係もあって開館日数が少ない状況だった。283日の開館日数。前年は317日。2年度も例年よりは少ない状況だ

ったが、さらに少ない一年だった。ただ入館者については数を減らすことなく、開館した日に皆さん来られたようだった。登録者数も少しではあるがプラスになった。蔵書冊数も、購入と並行して除籍もしながら順調に増えてきている。貸出冊数は、やはり減少している。イベントは感染対策をしながら、できるところからはじめていったので、前年度に比べると多少回復傾向にあることが見受けられる状況になっている。資料費については、令和3年度から増額しており、令和4年度も同じ額となっている。視聴覚ライブラリーの今年度の予算は25万円。

委員 コロナでの利用者の減少はあると思うが、コロナの前から自動車文庫の利用が減少しているようだが理由は何か。もっとPRも必要ではないか。

事務局 昨今少子高齢化が問題になっているが当市においても児童数の減少は著しく、小学校をサービス拠点としている自動車文庫についてはその影響を受けている様子が見受けられる。

今年度から津山圏域定住自立圏内の各種イベントにも参加している。

委員 自動車文庫の本の入れ替えはどのくらいの頻度でしているのか。読みたい本がないと言うこどもがいるが。

事務局 毎回すべての本を入れ替えることはできないが、巡回のたびに一部の本の入れ替えや補充をしている。毎週新しい本が入って来ているので、できるだけいろいろな学校に新着図書を届けられるように調整するよう担当に伝える。

委員 サービスマニュアルについて、国立国会図書館がデジタル資料をどんどん公開していて便利になった。国会のミニ版のようなものをしてもらおうと便利になる。

事務局 今すぐではないが、図書館のHP上にデジタルアーカイブの機能を持たせて公開していくことを検討している。

(4) 令和4年度津山市立図書館主要事業について

事務局 重点的に取り組むことと、具体的な内容としては

①幅広い知識・情報の提供

資料費が令和2年度より増額（令和3年度と同程度）

②学校図書館との連携と支援

調べる学習コンクールの実施

③子どもの読書と子育て支援の推進

音読大会等「つやまっ子読書プラン」の推進

④地域支援サービスの充実

各種講演会の開催

⑤津山圏域定住自立圏図書館事業の推進

令和3年7月から開始。今年4月から鏡野町が加わり津山圏域の1市5

町各図書館で相互利用を推進
⑥図書館DXの推進

今年9月からスマホ貸出券のサービスを開始

委員 各学校で朝10分か15分の読書の時間を設けていることがあると思われるが、その時間を活用して地域のボランティアの皆さんが読み聞かせを行う等、積極的に関わっている。そのような読み聞かせをされているボランティアの方の把握や支援について、取り組みがありましたら教えてください。

事務局 昨年度の取り組みとしては、「つやまっ子読書プラン」の事業として本の選書について読み聞かせボランティアをされている方を対象とした研修会を開催した。学校のボランティアについて現在図書館として把握はしていないが、学校図書館司書との連携が図られていて様子を教えていただくことはできる。
(補足 学校等ボランティアの方が直接図書館に来られて選書や読み方など質問を受ける事が多くその際に本を選ぶための本を紹介したり、大型絵本を紹介したり読み方のアドバイス等行っている)

(5) 図書館の新型コロナウイルス対策について

事務局 令和3年3月に津山市立図書館協議会として感染症対策等に関する意見書をいただいた。令和4年度の取り組みとして、アルコールディスペンサー5台と除菌BOX2台を導入し、全館での感染症防止対策に努めた。

委員長 令和3年3月に津山市立図書館協議会として意見書を提出した事が一定の効果をもたらしたとも考えられる。これからも図書館協議会としてできることを取り組むつもりだ。

(6) 図書館の運営について

委員 4、5年前に市内の小中学校をリフォームした時にパソコンルームを作った。今は一人1台端末になってパソコンルームはなくなった。子どもたちが端末を使って調べ物などができるよう図書館からデータをもらえれば良いが。

事務局 本のリストや調べ方のデータはあるので、学校教育課を通してデータを送ることができれば使ってもらうことはできると思う。実現できるようにしていきたい。

委員 データベースの活用について。今はどんなデータベースを入れているか。

事務局 現在はサンデックスとルーラル電子図書館を入れている。以前は日経テレコンを入れていたが、農業技術などの情報が得られるルーラル電子図書館のほうが利用されると考え変更した。県立図書館にも様々なデータベースがあるので調査依頼はできる。

(7) その他

事務局 津山市立図書館が「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2022」において、優秀賞を受賞した。受賞理由は公立、国立、私立をつなぐ三館連携の取り組みの持続を評価されたもの。最終選考会が11月30日に行われる。

令和4年度から7年度までの期間①図書館の魅力発信②地域との連携③子ども読書活動の推進④地域の歴史文化の保存と発信⑤情報力活用の推進を五つの柱とした津山市立図書館サービスマニュアルを策定した。

委員 自動車文庫でいつも利用させてもらってお世話になっている。自動車文庫の利用が減ったことに関して言うと子どもたちは習い事も多く忙しい。基本は読むこと、どうやって読書の楽しさを子どもたちに伝えるか。社会学習で図書館見学に行っているところも多いが、バス代もかかる。ZOOMなどで、図書館の案内をしてもらえないか。

事務局 そういった要望が学校からあれば、対応することは可能である。

7. 閉会 副委員長

ライブラリー・オブ・ザ・イヤーの話が出ていたが、津山市立図書館と津山高専と美作大学との三館連携のつながりから図書館協議会の委員に選出されるようになった。DX化は、何かデジタル化したらDXになるのではない。それをすることによって図書館や市民の生活が劇的に変わることだ。もう少し何か踏み込んでより便利になればよい。